

児童生徒支援のための『ワンポイント・アドバイス』

～児童生徒の実態把握に向けて



学級づくり 12 箇月
京都府丹後教育局

Tel : 0772-22-2175 Fax : 0772-22-0479
HP : <http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-k/>

この便りは、平成 24 年度丹後特別支援教育研究会研究グループⅡの協力を得て作成しております。

個別の指導計画作成にあたって

児童生徒一人一人のニーズに応じたきめ細やかな指導を行うために、個別の指導計画作成し、活用していくことが大切です。6月号では、個別の指導計画作成するポイントを紹介します。

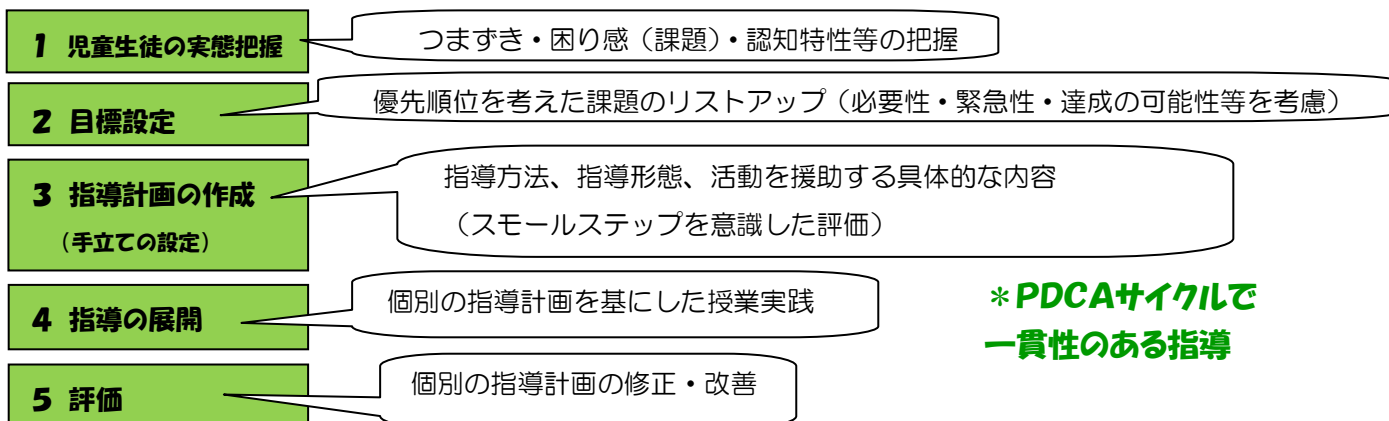
個別の指導計画作成すると…

- ・児童生徒の言動を注意深く見るようになります。
- ・児童生徒への対応やどう声をかければよいか分かります。
- ・指導を振り返り、教材や指導方法を見直すようになります。
- ・どの児童生徒に対しても、細かな配慮ができるようになります。



児童生徒一人一人のニーズに応じた指導が行えます。

個別の指導計画作成の手順



記入のポイントを紹介します。(例えば小学生の場合)

個別の指導計画 (例)

【主訴(保護者)】 *学校や家庭における本児の困っていることや困難なことを記入	学 年	(生育歴・家族構成・検査結果等)	
	氏 名		
【長期目標】 *1年間でどのような力を身に付けさせていくのかを記入	記入者名		
	記載年月日		
【短期目標】 *長期目標を達成するためのより具体的な目標を記入	主訴(保護者) □	(本児の実態)	
	主訴(学校)		
【指導や支援の具体的な手立て】 *目標を達成するためにどんな指導や支援を行うのか、指導内容や方法等を具体的に記入	長期目標		
	短期目標	指導や支援の具体的な手立て	評 価
	1 学期		(月 日 評価)

【本児の実態】
 *アセスメント票を基に本児の特徴的なことを記入
 *エピソードも含めて記入

【評価】
 *本児の目標達成度を指導や手立ても含めて具体的に記入

個別の指導計画を作成する上での実態把握のポイント

- 1 つまずいている領域・課題を発見する。
- 2 つまずいている要因を分析する。
- 3 得意なところや興味のあるところを発見する。
- 4 課題に取り組んでいるときの児童生徒の様子を把握する。
- 5 どこまで習得しているか把握する。
- 6 児童生徒のニーズを把握する。
- 7 保護者（家族）のニーズを把握する。



支援が必要な児童生徒への指導ポイント5

- 1 スモールステップで着実に課題をクリアさせる。
- 2 自分で積極的に向かえる課題を提供する。
- 3 集中できる時間や学習のスピードに配慮する。
- 4 知識やスキルが定着するよう繰り返し学習させる。
- 5 児童生徒が行ったことを即座に評価し、フィードバックする。

特別支援教育は、日々行われている指導や配慮が最も重要であり、決して特別なものではありません。

実態把握のツールとして・・・

児童生徒の実態を捉えるとき、チェックリストをよく使いますが、行動観察をするとき、次のような視点をもってくと児童生徒に対する見方が広がってきます。是非次の点を参考に、自分の学級の児童生徒を見てください。

① 姿勢・・・机にもたれかかっていませんか？ 身体がぐらぐらしていませんか？

② 注意集中・・・ぼんやりしていませんか？ 自分の世界に入っていないですか？
がんばれる時間はどれくらいですか？



③ 音への反応・・・苦手な音はありませんか？ 先生の話聞きもらすことはありませんか？

④ 書字について・・・利き手がはっきりしていますか？ 頭がぐらぐらしていませんか？
手先の器用さはどうですか？ 鉛筆は正しく持てますか？
字の形は整っていますか？ 枠の中に収めて書けていますか？
筆圧が強すぎたり弱すぎたりすることはないですか？



⑤ 発表の様子・・・話題がどんどんそれてしまうことはありませんか？
声が大きすぎたり小さすぎたりすることはありませんか？



⑥ 体育や遊びで・・・高いところや揺れるところなどを極端にこわがることはありませんか？
過剰に喜ぶことはないですか？ ボールを投げるタイミングはどうですか？
投げるときの動作はスムーズですか？

⑦ 表情・・・顔が強ばっていませんか？ 表情が沈んでいませんか？

⑧ 友だちとの関係・・・会話が一方的ではありませんか？ やりとりが続きますか？
話題が逸れませんか？
親子、友だち、教師との関係で過剰なストレスを抱えていませんか？



⑨ 社会性・・・その場の雰囲気合わないことを言ったりしたりしませんか？
友だちと協力して活動することはできていますか？

⑩ 行動・情緒・・・相手と共感的な関係をうまく作ることができていますか？
強いこだわりはないですか？ 多動・衝動的な行動はありますか？

*** 校内組織で児童生徒の実態を共有し、個別の指導計画の作成に生かす。**

☆次回の9月号の内容は「行事に係る支援と保護者への啓発」を予定しています。